

令和4年度第2回寝屋川市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会  
会議記録

- 日時 : 令和5年3月28日(火) 午前10時00分～11時15分
- 場所 : 寝屋川市役所 議会棟5階 第二委員会室
- 出席者 : 委員(10人)、事務局(6人)
- 傍聴者 : なし
- 案件 : 1 令和4年度における第2期市総合戦略の進捗状況(指標及びリーディング事業の実績見込み)について  
2 その他
- 資料 : [資料1] 令和4年度における第2期市総合戦略の指標の達成状況について  
[資料2] 第2期市総合戦略進捗管理シート【令和4年度実績見込み】  
[参考] デジタル田園都市国家構想総合戦略の全体像(内閣官房資料)

《委員からの主な意見》

- 部活動指導員の派遣が進む中で、指導員の質を担保する仕組みが必要ではないか。
- 指標「市の支援制度を活用して創業・開業した年間事業者数」の実績見込の分析において、「創業者数は一気に落ち込んだ」と記載されているが、あくまで「市の支援制度」を活用した対象に限って減少しているのではないか。
- 創業に関する補助制度について、創業時の支援だけでなく、補助を受けた事業者が事業に成功し継続して事業運営ができていることも重要ではないか。
- 創業に対する融資のニーズは高まっているが、融資の成約率は厳しくなっている。創業希望者が実際に起業するまでに、どのように導いていくかが重要である。  
例えば、特定創業支援の申込み前に、関係機関で融資の可能性や事業継続の可能性などを協議できる仕組みづくりなどが有用ではないか。
- 特殊詐欺について、自治会で、警察にお願いして勉強会を開催するなど取り組んでいるが、更なる取組ができないかと悩んでいる。また、民生委員・児童

委員を騙った事件が発生しているという話を聞く。これについても対策をしていければと思う。

- 防犯対策として、地域でのあいさつ運動が効果的である。
- 人口の少ないまちの方が、犯罪発生率が少ないと言われている。地域でのつながりを増やし、市内各地域で自立した小さいまちを作っていくことが大切である。
- 特殊詐欺を始めとした、犯罪の防止に向け、地域と警察の連携強化に加え、地域のつながりを更に高めていくことが重要ではないか。
- 市の契約事務や指定管理者の事業者選定に当たり、人権研修やハラスメント対策などの人権に関する取組状況をチェックするような仕組みを取り入れている事例がある。
- コロナ禍で高齢者の孤立が問題となっている。まちの賑わいづくりや高齢者の健康維持につながるような取組が必要ではないか。
- 地域のごみ集積所に、地域外の人がごみを捨てているという問題がある。ごみ処理の有料化など、対策の検討が必要ではないか。
- 小型家電製品の回収量が最近減っているように感じる。回収されたものがどのように再利用されているかなど、リサイクルを促進するための取組が必要ではないか。
- コロナの経験を踏まえ、場合によっては、オンラインなど対面ではない方法で事業を実施する手法の検討が必要ではないか。
- 様々な事業等について、コロナの影響により実施、開催ができなかったことはやむを得ないものの、今後はより積極的に、様々な取組を進めていく必要があるのではないか。

以上